

めぐみ

2022年 9月号

学校法人 聖公会北関東学園
初雁幼稚園
〒350-0057 川越市大手町 8-5
Tel.222-5385 Fax 228-5010
E-mail hatsukari-kg@nifty.com

「夏休み」を終えて思うこと どんぐり組担当 森重 路子



夏休みが終わりました。みなさんどんな風に過ごされたでしょう。お仕事もあり、普段と変わらない毎日をご過ごされた方もいることでしょう。暑い中、またコロナ禍の中で、子どもたちは、どうやって日々を過ごしたのだろうかと思ひ巡らせます。

私の子どもたちが小さい頃は毎日初雁公園の初雁プールに通っていました。プールには、たいてい初雁ママ(初雁幼稚園保護者)かいて、一緒に子どもたちを遊ばせたりしながら、初雁ママとお喋りするのが楽しみでした。私は初雁ママとお喋りで息抜きができ、子どもたちは子

ども同士のびのびと遊べるので、一石二鳥でした。そんな毎日を教えてくれたのは、先輩の初雁ママでした。「親子だけで過ごす、余計なことで怒っちゃうじゃない？」との話。確かに親子だけで遊ぶと、我が子の気になるところばかりに目がいき、遊びに来ているのに、「夕飯はどうしよう」「そろそろ帰ろうよ」と、私の予定に、子どもを合わせがちになって、楽しめなかったことが多かった気がします。

随分前にNHKスペシャルで、「ママたちが非常事態!!」という番組があり、興味深く観ました。母親は、出産によってエストロゲンホルモンが減少し、産後鬱や、不安を感じやすくなること。何故そのような身体の仕組みがあるかということ、人類は、進化の過程で習得した、共同養育というスタイルがあったという話。だからこそ、核家族化が進む現代の子育てが非常事態ということ。現代は、ママ友などと繋がりたいというのは、本来の姿なのということ。本当に、腑に落ちたことを思い出します。「子育ては、お母さんだけが頑張るものではないんだ。みんなで子どもたちを育てていくんだ」ということを先輩ママたちは、確かにいつも声をかけ合って、伝えてくれていました。そして、それが、人類が子どもを育ててきたスタイル、共同養育ということだと身をもって教えてくれました。

私の子育ての時代からだいぶ変わったこともあります。コロナ禍で、集まりにくい状況もあります。そんな中でも「お祭りに行って、〇ちゃんと会って、一緒に回ったんです。」や、「一緒に川に行くんです。」などというお話を聞くと嬉しくなります。また、プレイデイや、園内整備では、たくさんのお父さんたちも子どもたちを盛り上げてくれました。早く安心して、みんなが集まれることを強く望みます。そして大変な中奮闘されて子育てをしているみなさんに大きなエールを送りたくくなります。今を生きる子どもたちが、いきいきとたくさん遊びながら安心して生活出来るように。お家の方たちも子育ての時に豊かな喜びの時間となるように。私も我が子の子育ての時に頂いたものを少しづつお渡しできる役目を果たしていきたいと思います。

今月の保育目標と予定

☆保育目標☆

★予

定☆

今月のテーマ

「やってみよう」

目 標

- 身体を存分に動かして、挑戦する
- 夏の経験を通して、遊びが広がる。
- 目に見えない神様の存在を感じる

学年別のねがい

- (1歳) 模倣して遊ぶ
- (2・満3歳) 気持ちを表す
- (年少組) 友だちの存在を強く感じるようになる
- (年中組) 友だちの思いを知る
- (年長組) さまざまな感情を経験し、乗り越えようとする

ひとこと

毎年、夏を越えた子どもたちはぐんっと成長した姿を見せてくれます。夏の経験を通して味わった楽しさや満たされた気持ちを出し合いながらいろいろなことにチャレンジして行ってほしいと思います。自分の気持ちを素直に表しながら、少しずつ、一緒に過ごす友だちの思いを知り世界を広げていくことも願っています。目に見えない神様に愛され守られていると感じつつ、のびのびとやってみる9月でありますように。

今月の聖歌

「すんばらしき主イエスの愛」

今月の歌 「どんぐりころころ」

日	曜	行事などの予定
1	木	アルミ缶回収
2	金	全体礼拝 ↓
3	土	就労家庭保育実施日
4	日	
5	月	
6	火	
7	水	
8	木	年中参観・懇談・交流会
9	金	全体礼拝
10	土	就労家庭保育実施日 幼稚園委員会③
11	日	
12	月	年少参観・懇談・交流会
13	火	年長参観・懇談・交流会
14	水	
15	木	
16	金	全体礼拝
17	土	就労家庭保育実施日 新採研⑥
18	日	
19	月	敬老の日
20	火	
21	水	
22	木	
23	金	秋分の日
24	土	就労家庭保育実施日
25	日	
26	月	
27	火	
28	水	9月生まれ誕生会
29	木	
30	金	全体礼拝



チャプレンのページ



備え

「真の命を得るために、未来に備えて自分のために堅固な基礎を築くように」

テモテへの手紙 I 第6章 19節

川越基督教会から初雁幼稚園への道は、川越高校の通学路にもなっており、多くの高校生たちが私と一緒に歩いていきます。試験が近づくと、数々の資料や英語の単語カードなどを見たり、友人と試験に出そうな内容を話し合ったりして、準備を進めているのをよく見かけます。

仕事にしても勉強にしても、重要な節目や評価の 때가 近づくと私たちは多くの準備をします。悔いのないように、出来るだけのことをしてこの節目を乗り切ろうとするわけですが、私はなかなか思うような結果を出せたことがありませんでした。努力不足もありますし、よい結果を出せる頭脳も持ち合わせていないのだと痛感したり悔しく思ったりすることが多かったです。

それ以上に、試験のための勉強や仕事の準備をたくさんしても、それがどれだけ生かされたかを考えると、極めて少ないと言わざるを得ません。準備をしたことが 100%生かされればよいのでしょうか、実感としては 30%あればよい方ではないでしょうか。野球好きの友人にこの話をしたら、「野球選手は 3 割打てれば強打者だからね」と言っていました。エネルギーを用いて備えたとしても、それが生かされるかどうかは別問題、生かされないまま終わってしまうことがずいぶん多かったように振り返ります。

冒頭の聖書の言葉は、「未来に備えて自分のために堅固な基礎を築く」、すなわち人生の枝葉ばかりに気を取られるのではなく、しっかりとした人生の基礎を築くことを忘れないようにと、勧められた言葉です。人生の豊かな枝葉を求めようとしても、基礎がしっかりしていなければ豊かに実ることはない、その意味で、人生の備えは一つとして無駄なことはないのだと言っているのです。

私たちは、試験や仕事など、その時その時のタイミングでのみ判断し、今回の準備はほとんど生かせなかったとか、役に立たないことにエネルギーをたくさん使ってしまったと考えてしまい、自分自身の盤石な基礎形成にまでなかなか思いが至らないことが多いのではないのでしょうか。本当に重要なのは、盤石な人生の基礎形成であり、枝葉は二の次のはずです。

世はどんどん忍耐を評価しなくなってきました。仕事も忍耐するぐらいなら、この仕事は合わないと考えてさっさと辞め、新しい仕事を探す方がいいと考える若者が増えています。人生の基礎形成のために忍耐を説かれた私の年代からしますと、現代の子どもたちは一層困難な中で自分自身の基礎形成に取り組んでいかねばならないように思います。

しっかりとした人生の基礎を持つというのは、聖書の時代から、時と距離を超えて私たちにせまる大切な言葉です。

(チャプレン 鈴木 伸明)

特集 草津キャンプ 7月20～22日

草津キャンプの前に感染がまたもや広がり始め、キャンプ中に何かあったらどうするか、考えて臨まねばならないところでしたが、不思議とそこまでの心配はなく出発をしました。一番の心配は、天気。せっかく行けても天候に恵まれないとかわいそうだなと。これまた不思議ですが、子どもたちの行く先々は、子どもたちの願いが届くものです。そんな草津での3日間をレポートしました。

胸がいっぱい



今年もすみれ組は、草津キャンプへ行ってきました。無事に草津キャンプの日を迎えられたことにほっとしました。何より、誰一人お休みすることなく25人全員で一緒に経験できたことに嬉しく思います。「行ってらっしゃい」と子どもたちのことを温かく送り出してくださった保護者の皆様には心から感謝しています。

クラスでは、キャンプに向けてキャンプファイヤーごっこや西の河原ごっこをしながら、どんな場所なのか、想像を膨らませながら過ごしていました。この2つは特に、子どもたちが楽しみにしていた時間でした。楽しみにしていた

分、実際に体験してみると子どもたちの表情はキラキラと輝いていて、想像の何倍も楽しめたように見えました。

1日目の夜、いったいどのくらいの子が寂しくなって涙してしまうのだろう、と実は内心ドキドキしていました。ところが、1日目も2日目の夜も子どもたちはぐっすり夢の中。3日間を通して、涙する子がほとんどいなかったことに正直、驚きました。行事や初めてのことにはドキドキしがちだったこのクラス。仲間と助け合い、支え合い、ともに乗り越えようとする姿に胸がいっぱいになりました。きっとその姿の裏には「頑張ろう」と自分を奮い立たせているところがあったと思います。普段、しっかりしていて大人びて見える子どもたちですが、一人一人とじっくり関わると素直な気持ちを伝えてきたり、甘えてきたりして、子どもらしいかわいい姿がたくさんあります。それは、この幼児期だからこそできる経験だと思います。そんな今だからこそできることを子どもたちにはたくさん経験してもらいたいと思っています。

この大きな3日間を乗り越えた子どもたちを誇りに思います。幼稚園に到着したときの、普段とは少し違ったお家の人からの「おかえり」という言葉。子どもたちの胸がいっぱいになった瞬間だったと思います。きっとこの3日間でそれぞれが力をつけたことでしょう。仲間同士の絆もより深まったことと思います。2学期には、運動会や聖劇礼拝など子どもたち一人一人の力、またクラスとしての力を発揮する場面があります。うまくいくこともあれば、失敗して立ち止まることもあるでしょう。たくさん失敗して、たくさん悩んで大きくなっていくと思います。25人それぞれの持つ力を出し合い、補い合いながら、いろいろなことに挑戦し、乗り越えて行ってほしいと願っています。

キャンプ1日目～キャンプの1番の楽しみ～

出発時は心にしまっていた不安と緊張の思いが溢れる子もいましたが、これからの3日間へ

の期待感も大きかったみんな。記者ノートの「草津キャンプの何が1番楽しみ？」という質問に、多くの子が書いていたのが、1日目の「西の河原」と「キャンプファイヤー」でした。

例年よりも水が冷たかった今年の西の河原。最初は「きゃー！冷たい」と叫んでいましたが、だんだん慣れてくると冒険心でずんずん進んでいくみんな。流れが速いところは「私の手につかまって」「ここに足を置くといいよ」と友だちと助け合いながら進んでいました。大きな岩を集めて家を作ったり、熱いところと冷たいところを行き来しサウナのように楽しんだりしました。来るまでの汗を流しながら手の皮がふやけるまでたっぷり遊び、充実した時間を過ごしたのです。

もう一つの楽しみであった、綺麗な星が輝く夜空の下でのキャンプファイヤー。私が今まで経験した中で、こんなに盛り上がったキャンプファイヤーは初めてでした。キャンプファイヤーで踊る初雁伝統の「タタロチカ」は、1学期の自由遊びでも自然と踊り出すくらいとても楽しみにしていたダンスでした。全力で踊るみんなの顔は、火にも照らされキラキラ輝いていました。

年少のころからよく聞き、理解し、常に側にいた友だちと支え合い考え合いながら過ごしてきた今年のすみれ組。少し大人なみんなの、無邪気で子どもらしい姿を見られたことが嬉しかったです。そして、3日間を通して子どもたちからよく聞いたのは、相手を思いやる言葉。いつどんなときも25人ですみれ組だということを一人一人が思っているからこそ、自然と相手を思いやったり気にかけてりする言葉が出てくるのだと感じました。温かいみんなとともに過ごせた最高の3日間でした。

キャンプ2日目～やること盛りだくさん～

やることが盛りだくさんの2日目。朝、ラジオ体操とあいうえお体操を行い、体の準備オッケイ！朝ごはんをモリモリ食べてお腹の準備もオッケイ！まず最初に向かったのは熱帯圏です。7色に光るクワガタや色鮮やかな蝶の標本の出迎えに、持ってきたカメラのシャッターが止まらないほど釘付けな子どもたち。中に進んでいくと触ってほしさに近くまで寄ってくるキツネザルがいました。「目が大きいね」「フワフワしてて気持ちいいよ」など近くで動物たちとの触れ合いを楽しめる、熱帯圏ならではの経験でした。

その後はマーガレット館に戻りスイカ割りを楽しみました。目隠しをして緊張気味の子もたちでしたが、「後ろ！右！回って」「もうちょっとこっち」と友だちの声援に対し「こっちって、どっち？」などやり取りを楽しみながら見事スイカに命中！スイカが苦手な子も「少し食べてみる」と挑戦したり、遠くに種を飛ばせるか競いあったりしながらお腹いっぱいになるまで食べました。

夕方はマーガレット館から少し歩いたところにある大滝の湯に行きました。大きな温泉に友だちや先生と一緒に入る経験はキャンプならではの！友だち同士で「気持ちいいね」と言いながら心も体もポカポカです。

そして夜はおうちの人たちにむけてはがき書きです。「キャンプで何が楽しかった」と聞くと、「キャンプファイヤー」「お友だちと一緒に寝たこと」「熱帯圏」などと次々と出てくる子どもたち。たくさんのお思い出をのせたはがき、ぜひお子さんと一緒にご覧ください。

キャンプ3日目～友だちの存在を近くに～



草津キャンプ3日目。少し早めに目が覚めた子もいましたが、ほとんどの子が6時30分までぐっすり眠れました。前日の夕方から雨が降り続いていたため、予定を変更しながら過ごしました。そうしている間に雨が止み、「今がチャンス！」と松村まんじゅうへ。道中、たくさんの観光客の方、地元の方と会いました。「こんにちは」と1人が挨拶すると、後に続いて「こんにちは」とみんなが挨拶します。「かわいい」「どこから来たの」と、みなさん笑顔で対応してくださり、とても温かい空気が流れていました。松村まんじゅうに着くと、子どもたちは少しドキドキした様子。それでも前の子の様子をじっとみて、自分で「おまんじゅう〇個ください」「ありがとう」と伝え、

お土産を購入することができました。昼食後はみんなで大掃除！雑巾であちこち磨きます。「みてみて、こんなに真っ黒になったよ」と見せ合い、自慢げな子どもたち。「3日間ありがとう」の気持ちを込めて、一生懸命掃除しました。帰りのバスでは「となりのトトロ」を観て、最後はみんなで大熱唱♪トトロが終わると、「もう川越？」「あと何分」とお家の人との再会を待ち望み、しみじみな気持ちを共有していました。

3日間を一緒に過ごすことで、困ること、ぶつかり合うこともありましたが、そんな時に助けてくれるのも友だち。友だちの姿をまねて自信につながったり、喧嘩をしていれば仲裁に入ってくれたり。今まで以上に友だちの存在を近くに感じられたのではないかと思います。

年に一度のお楽しみ！



運動不足で体のあちこちがたるんでいる私にとって、今年のキャンプは最大のダイエットチャンスになりました。天候を気にしながら急きょ予定を変更し、外で遊べる時間は最大限に設けることにしました。初日の西の河原は他のお客さんがほとんどいなくなるくらい遅くまで水遊びをし、マーガレット館に腹ペこで戻りました。私は子どもたちよりは少し早めに帰って夕食作りに取り掛かったのですが、31人分のポテトと唐揚げの揚げ物に大苦戦しました。夕食時の子どもたちの食べっぷりと「おいしい！」の笑顔に癒された後は、大量の洗い物との闘いに挑むような3日間でした。気づくと立ちっぱなしの一日でしたが、ある女の子の隣りで久しぶりに寝させてもらい、小さくてかわいい宝物のぬくもりを感じると一日の疲れもすぐなくなりました。

キャンプ中、子どもたちはよく喉が渇きます。大きなやかんを沸かして麦茶を作るのですが、外に出るたびに水筒は空っぽに。水筒に付け足しては沸かしての繰り返しです。何度もやかんに水を入れながら、「そういえば昔、ラグビーサークルのマネージャーだった！」と一人、思い出していました。

夜になれば布団を部屋いっぱい敷き詰め、カップを着れば全員分乾かし、空き時間を見つけて畳んで、着替えのたびにぐしゃぐしゃに混ざった子どもたちの荷物も帰る時には何とかリュックやバッグに収まり…。まさに、先生たちは合宿中のマネージャーの働き！鈴木先生を含め総動員で乗り越えたキャンプ、無事に全員で川越に戻ってきた時の安堵感は子どもも大人も同じでした。ダイエットには成功しませんでした、子どもと大人が一体になれるキャンプは年に一度のお楽しみです。

わが家のまど



(252) アルティメットフリスビー

補助職員 佐久間 夏



お久しぶりです！昨年度どんぐり組のアルバイトでお世話になっておりました大学2年の佐久間夏と申します。今年度は大学の授業が対面形式になりサークルにも入り忙しい日々を送っています。もう4ヶ月ほど子どもたちに会っておらずとても寂しいです。夏休みもサークル活動に遊びにアルバイトに飛び回っており、家に居ないことが多くついに母(保育部の洋子先生)に怒られてしまいました(笑) そんな私が今熱中しているサークル活動の

話をさせていただきたいと思います。

私は「アルティメットフリスビー」という競技をするサークルに所属しています。アルティメットフリスビーとはアメフトとバスケットを組み合わせたようなスポーツです。100×37mのフィールドでフライングディスクを落とさずにパスして運び、フィールドの両端にあるエンドゾーンでキャッチすると得点するというルールです。基本7人対7人で行われ、試合時間は大会により異なるのですが1時間を超えることもあります。ディスクが落ちる度に攻守が入れ替わるため走力や持久力、ディスクを投げる技術など幅広い能力が必要で、まさに究極のスポーツです。身体接触は禁止で審判を置かずセルフジャッジで行うことも特徴の1つです。

アルティメットはマイナーなスポーツですが、様々な要素があり非常に面白いスポーツです！気になった方は是非「アルティメット」で検索してみてください！！

(253) 第二の故郷

もも組担任 味戸夢香里

8月は久しぶりに両親の故郷である福島に行こうかという計画を立てていました。しかし泣く泣く断念。思えばもう3年程行けていません。元々父方の親戚は仲が良く、父は三兄弟の次男なのですが、嫁3人の仲がとても良いので年末年始、ゴールデンウィーク、お盆とほぼ毎年2、3回は集まるという少し珍しい親族でした。長男夫婦は同居しててみんなが集まる日はビールサーバーを借りてくれて大盛り上がり、次男家は海鮮などのお取り寄せを、三男家は神奈川からお洒落なスイーツをいつもお土産してくれるのでお茶の時間も自然にみんなが居間に集まります。長いと1週間程居させてもらい、何をすることもなくゴロゴロしたり姉と畑のブルーベリーをあるだけ摘み取ったりと毎日何気ない楽しみをみんなと共有していることがとても

楽しかったのです。

今年は福島には行けなかったので千葉の実家に帰りました。帰ったタイミングで甲子園が始まり、福島代表の聖光学院と横浜高校の試合を母と観ていました。元々大好きな甲子園。どの高校が勝っても負けてもドラマがありますがやっぱり福島を応援！応援しながら福島から届いた桃を母が剥いてくれ、「これぞ夏！」を感じました。これからも福島生まれ、千葉育ちの私は埼玉の地で陰ながら福島県も応援していこうと思います。



今月の聖書のおはなし



☆ 9月9日「タラントンのたとえ」

マタイによる福音書 25章 14～30節

家の主人は、旅に出るときに3人の家来を呼んで財産を預けました。一人には5タラントン、もう一人には2タラントン、最後の一人には1タラントン預けました。3人のうち、2人は、商売をしてお金を倍にしました。しかし、1タラントン預けられた者は商売に失敗をして怒られることを恐れ、主人が帰ってくるまで地に埋めておきました。主人が帰ってきたとき、それぞれがお金を返すと、1タラントンをそのまま返した家来は「だれでも持っている人は更に与えられて豊かになるが、持っていない人は持っているものまで取り上げられる」と言って、暗闇に追い出されてしまいました。この「タラントン」とは英語の「タレント」の語源になっているといわれる言葉です。自分の持っているタラントンをどう活かすかを神さまは例えて教えてくださっているのです。

☆ 9月16日「仲間をゆるさなかった家来のおはなし」

マタイによる福音書 18章 21～35節

ある人がイエスさまに「兄弟が私に対して罪を犯したなら、何回赦すべきでしょうか。7回までですか」と聞くと、イエスさまは「7回どころか7の70倍までも赦しなさい」といわれました。しかし、この人は自分に仮のある家来を赦しませんでした。それを見たイエスさまは「私がお前を憐れんでやったように、お前も自分の仲間を憐れんでやるべきではなかったか」と諭されました。

私たちは、日々神様の赦しの恵を受けて生きています。自分が受けている赦しに応えて、自分も人を赦すという「赦しの本質」を話されているのだと思います。

☆ 9月30日「ぶどう園の労働者」

マタイによる福音書 20章 1～16節

あるぶどう園の主人が、一日につき1デナリオンの約束で働く人を雇うために、9時に広場へ行き、人を雇いました。12時、15時、17時にも広場に行き、その時間にいた人々を雇いました。夕方になり、主人は「最後に来た者から始めて、最初に来た者まで順に賃金を払ってやりなさい」と言いました。みんな同じだけの賃金をもらおうと、9時に雇われた者は最後に来て1時間しか働かなかった者たちと、自分たちの賃金が同じであることに不平を訴えました。しかし主人は「友よ、あなたは私と1デナリオンの約束をしたのではないか、何も不当なことはない。私は全員に同じように支払ってやりたいのだ」といいました。これは、「天の国」すなわち、神様の愛をこのぶどう園の主人に例えて話されたお話です。